

第1部 シンポジウム

地域力の源を知ろう！

信州の豊かな暮らしを支えている住民活動やボランティア活動。その背景には地域に対する「愛」や人に対する「愛」があります。その「愛」を育むのは何なのか。人や地域を動かす力や文化とは何か。地域活動実践者との対話により、地域活動やボランティア活動の根幹を問いかけます。



お名前 加山 弾さん

所属 東洋大学 社会学部 社会福祉学科 教授

略歴 関西学院大学大学院社会学研究科満期退学（博士）。地域における社会的孤立・排除の問題事象を構造化し、コミュニティワークによってどのように解決しうるかを中心に研究。また、最近では、実践家の方々と共同で、コーホート分析などを用いて、“既存のフレーム”で看過しがちな問題の把握（地域アセスメント）について研究を行っている。東日本大震災後は県外避難者への支援と地域住民との関係形成（コミュニティづくり）促進へも取り組んでいる。

書籍等 『社会を変えるソーシャルワーカー制度の枠組みを越え社会正義を実現するためにー』（ミネルヴァ書房, 2020年）〈共編著〉 等



お名前 所 正文さん

所属 社会福祉法人 堺市社会福祉協議会
地域福祉課長

略歴 平成3年入職。地域組織、当事者組織、福祉機器活用相談などを担当。平成18年から地域福祉総合企画を担当し、平成21年に行政と合同で地域福祉(活動)計画を策定。以後計画策定時に地域福祉ねっとワーカー(CSW)事業、権利擁護サポートセンター、生活困窮者自立相談支援事業、生活支援コーディネーター、子ども食堂ネットワーク構築事業、地域福祉型研修センターなどを事業企画し、現在はスーパーバイズを担う。

書籍等 「地域共生社会の実現にむけた増進型地域福祉の推進」小野達也、朝倉美江編著「増進型地域福祉への展開」(同時代社2022年) 他



お名前 矢島 佳代子さん

所属 株式会社池の平ホテル&リゾート 女将

略歴 共立女子短期大学英文科卒業 三菱商事株式会社勤務を経て、池の平ホテルの長男と結婚。現在も女将さんとしてお越しいただくお客様への接遇を楽しんでいる。

実母を癌で亡くした時に「ありがとう」を言えなかった後悔と、義父・義母の介護、看取りを経験し、終活の必要性を感じ、終活カウンセラーなど、終活に関する資格を取得する。観光の仕事をする中で、お世話になった地域の方々に「終活の大切さ」「エンディングノートの書き方」を伝える活動を始めた。

書籍等 「しあわせのエンディングノート」



お名前 菊原 修一さん

所属 小海おはなし本舗

略歴 小海町出身。岩村田高校卒業後、自動車部品製造会社への勤務だどのため首都圏で暮らす。23歳で帰郷し、実家の金属加工工場を継ぐ。紙芝居との出会いは15年前に長野市の「歴史の町長野を紡ぐ会」に偶然であったこと。地元の小海町でもこの取り組みができないか考える。第1作目は「松原湖の竜」。その後、賛同者が増えてるとともに、積極的に活動を展開する。

作品作りを通して、古文書を読んだり、地域の史跡を巡ったりと、常に歴史を学んでいる。



お名前 佐久市岩村田高校 ボランティア班

略歴 班員数19名(1~3年)

主な活動内容

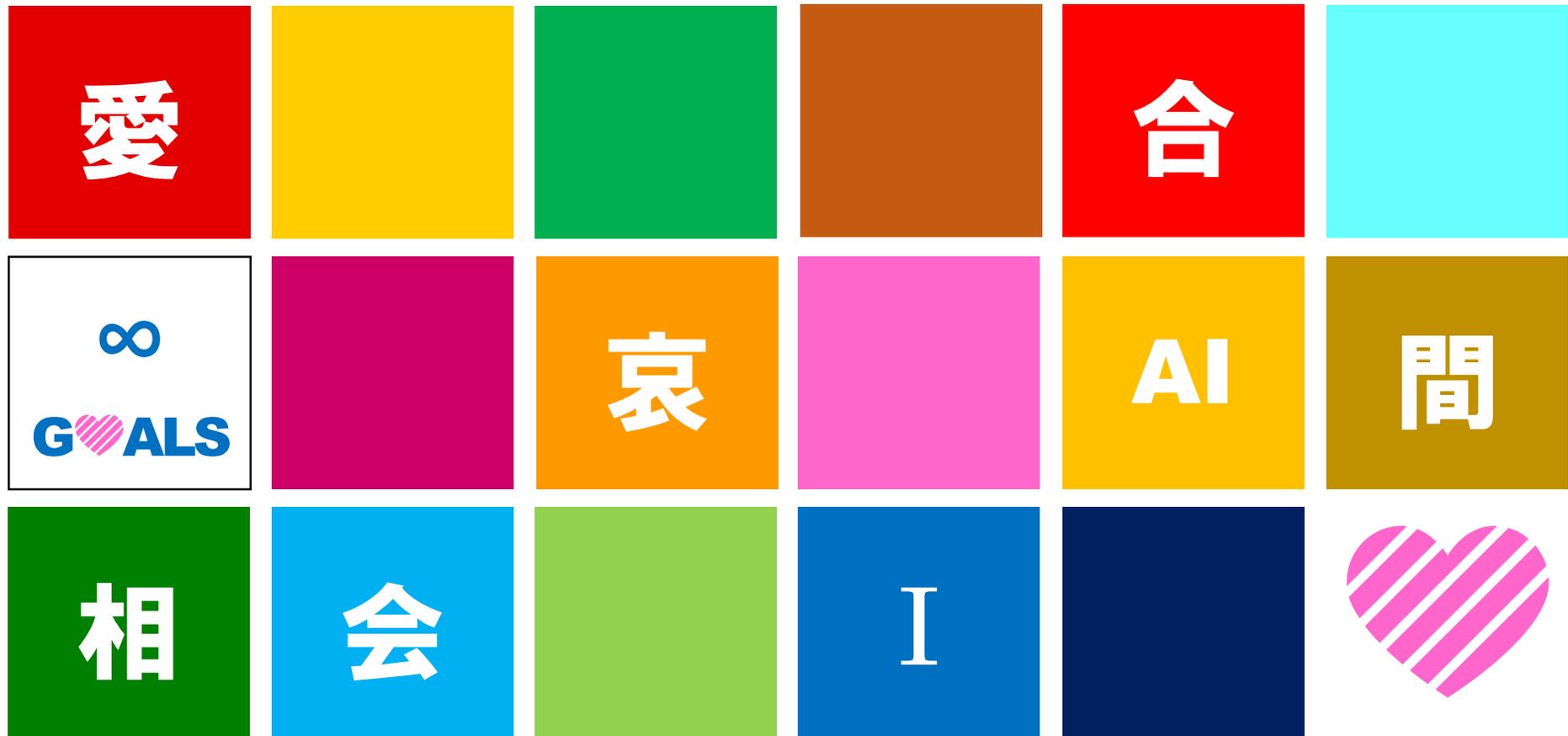
- 各種募金活動、地域ゴミ拾い
- 佐久バルーンFSボランティア
- 紙芝居作り(小諸市立図書館と協働)
- 高齢者福祉施設夏祭り補助
- 就労支援施設商品販売(文化祭にて)

現在はコロナ禍で地域との直接的な関わりに制限があり残念ですが、自分たちでできることを考えながら活動しています。

〈あい〉で 地域を動かそう

2022.12.3.

加山 弾 (東洋大学)



コロナでもつながる、コロナだからつながる

- コロナ禍での制約（分断）とつながりの再生
- 集まらずにする活動 v s 気をつけながら集まる活動
- コロナ禍がなくてもしたことの堅持 v s コロナ禍だから取り組むこと（マスクづくり、手紙や電話での見守り、食の支援等）
- コロナがあったからこそその出会いがある。苦しい時に助け合った経験は、あとにも残る。

「レジリエンス（復元力、回復力）」を
アフターコロナに継承しましょう

(参考) 大阪市社協「コロナの中でもつながる方法」

集まれなくてもつながる方法

- 電話でつながろう（安否確認、コミュニケーション等）
- 手紙・届けものでつながろう（ニュースレター、メッセージカード等）
- オンラインでつながろう（ICT、SNS、オンライン会議等）
- うちでできることをシェアしよう（簡単な体操や脳トレ、家での遊び等）

気をつけながら集まる方法

- 活動の目的と、この間の状況を見つめ直そう
- 関連するガイドラインや資料を確認しよう
- 夏場は熱中症にも気をつけよう
- 話し合っ、方向性を決めよう
- 具体的な準備・対策をして、再開へ
- ふり返って、次へつなげよう

コロナ禍でも“地域のつながり”を切らさない －地域の取り組み－

(地縁組織・ボランティア)

- ○○町会連合会：（上半期）見守り・例会を自粛。電話で安否確認・励まし。
（下半期）秋の敬老祝い品から訪問・手渡し開始。フェイスシールド、マスク、除染の徹底
- ○○老人クラブ連合会：行事はAB2グループに分けて参加者を半減。時短で実施。電話と郵便で激励（「激励文＋マニュアル」郵送。健康体操・音楽療法の講師に協力依頼）
- ○○町会＋包括：高齢者はフレイル→骨折→認知機能低下やうつが、現役世代はテレワークの増加とともに虐待が見られるようになった。暑中見舞いを往復ハガキで（びっしりと書かれた返信）
- 傾聴ボランティア○○…「電話で話してスッキリ」の開始。「絵はがき使い切ろう」運動。

コロナ禍でも“地域のつながり”を切らさない －社会福祉法人の取り組み－

(社会福祉施設・事業所)

- ○○会：施設が運営するカフェ（子育て層向け等）を休止→**弁当販売・宅配**（学校給食中止支援・在宅高齢者向け等）に切り替える。管理栄養士監修。ホームページ・Facebook・LINEで周知。
- △△会：施設が運営するカフェを休止→利用者の手作りパンの宅配。老人センター休館→利用者の運動不足対策に、**体操のプリント＋塗り絵**を郵送。塗り絵は返信してもらい施設に展示。**ICT（Zoom等）の利用支援**。家族が感染した**障害者を施設で受け入れ**。
- ○○地域公益活動ネットワーク：施設で運営していた子ども食堂を休止→個別に食事を宅配（または取りに来てもらう）。飲食店・民生委員・社会福祉法人・社協などが連携。**法人間のオンライン情報交換会**を開催（地域課題の共有）
- △△市社会福祉法人連絡会：学校給食中止の支援。**市内の施設で昼食を多めに作り、弁当配付**。社協は広報・受付、弁当配達、利用料補助。

哀

愛

会

大規模災害とレジリエンス

東日本大震災での哀、愛、会

- 被災地の喪失と出会い、希望の芽生え
- 県外避難者を排除する地域（偏見、排撃、いじめ、診療・入園拒否...）
- 県外避難者を受け入れる地域（自治会との温かな交わり、社協・民生委員による細やかなサポート...）

合

相

間

共生とは？

地域共生社会時代に「共に生きる」とは

- 共生 (symbiosis) は、そもそも生態学理論 (異種間のゆるやかな緊張関係)。多様な生物が同じ空間で共存する。互いの違いに敬意を払い、不要に干渉しない (同質であることを強制しない)。でもユートピアではなく、おなかがすいたら相手を食べる (!)。おなかが満たされていれば互いを意に介さない。

生存闘争 (struggle of existence) …同種・近種の個体間の関係

生存競争 (competition of life) …異種間のゆるやかな共存

(奥野良之助1997)

- 多文化共生と地域共生…メルティングポットか、サラダボウルか??
政策化が進展する今 (重層的支援体制整備事業等)、わが町の歩みの羅針盤にできるか

地域共生社会とは

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、**住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会**



対人支援において今後求められるアプローチ

支援の“両輪”と考えられるアプローチ



具体的な課題解決を目指すアプローチ

- 本人が有する特定の課題を解決することを目指す
- それぞれの属性や課題に対応するための支援(現金・現物給付)を重視することが多い
- 本人の抱える課題や必要な対応が明らかな場合には、特に有効

つながり続けることを目指すアプローチ

- 本人と支援者が継続的につながることを目指す
- 暮らし全体と人生の時間軸をとらえ、本人と支援者が継続的につながり関わるための相談支援(手続的給付)を重視
- 生きづらさの背景が明らかでない場合や、8050問題など課題が複合化した場合、ライフステージの変化に応じた柔軟な支援が必要な場合に、特に有効

共通の基盤

本人を中心として、“伴走”する意識

個人が自律的な生活を継続できるよう、本人の意向や取り巻く状況に合わせ、2つのアプローチを組み合わせることが必要。

私が変われば、地域は変わる

- 仕事や趣味を地域づくりに活かす

前職（元●●）を活かす…元教師が学習支援を／元運転士が交通指導を／
元電気技師が子どもの科学教室を…

趣味を活かす…コーラスで福祉施設を訪問／語学を活かして通
訳を／スポーツチームが障害者や子どもの教室を…

07 シニア先生のアイデアワークで、子どもたちを元気に!



世代交流会

▲子どもたちの「できる」を引き出す

やった! できた!
子どもの
笑顔が生きる力

▶牛乳パック
でパワー風車



長野県シニア
大学のOB

を中心に平成16年から、得意な工作を通じて、子どもたちとの交流や支援ができないかと、小学校や児童センター、保育園などを訪問しています。家庭にある材料を使ったアイデア満載のおもちゃ作りは、子どもたちのやる気を引き出すと好評で、各種イベントへの協力もしています。

現在13名のメンバーで、1年間に1000以上の子どもたちと触れ合いました。おちができたときの子どもたちの笑顔と、「来てね」の言葉がシニア先生の宝物です。

連絡先 松本市大字島立1020 松本保健福祉事務所内
長野県長寿社会開発センター松本支部
電話 0263-40-1911 FAX 0263-40-1803

←趣味・特技を活かす

キャリアを活かす→

誰もが資源。寄せ合えば地域の力になる

18 安心につながる村の縁側

地域の縁側 ボランティア健康相談室



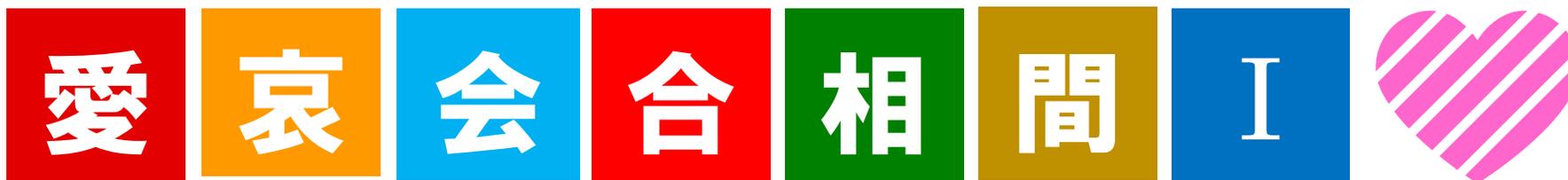
羽生憲直さん
61歳

▲退職後は、何か地域に参画したいというつづぶやきを同級生がつなげてくれたといいます

所在地 下伊那郡喬木村6695-1
連絡先 喬木村みんなの広場アスポ
電話 0265-33-5520

羽生さんは元勤務医。定年を機に、出身地の喬木村の社協内に「地域の縁側 ボランティア健康相談室」を開きました。健康について助言したり医療につなげたりしています。大切にしているのは、病院の立場ではなく、その人の立場。自分自身も同じ村に生きる人だから、同じ目線で向き合いたい。よりよい方向へ導くにはその人自身の声に耳を傾けること。受付を協力する「ちよっとおよろけ喬木村縁側の会」の皆さんが優しく相談室へとつながります。ボランティア相談室は安心につながる村民の居場所。人と人がゆるやかにつながる“縁側”です。

「あい」溢れる地域をつくりましょう！



2022年12月3日(土)

長野県まちボラフォーラム

社会福祉法人堺市社会福祉協議会
地域福祉課 所 正文

社会福祉法からみる住民への 役割期待の変遷

理解
促進
～1998年

参加
促進
1998年

地域福祉の
推進主体
2000年

地域生活課題
の解決
2017年

社会的孤立

少子高齢化・人口減少社会

核家族化の進行

家庭の機能の変化

地域活動の担い手の減少

地域社会の機能の脆弱化

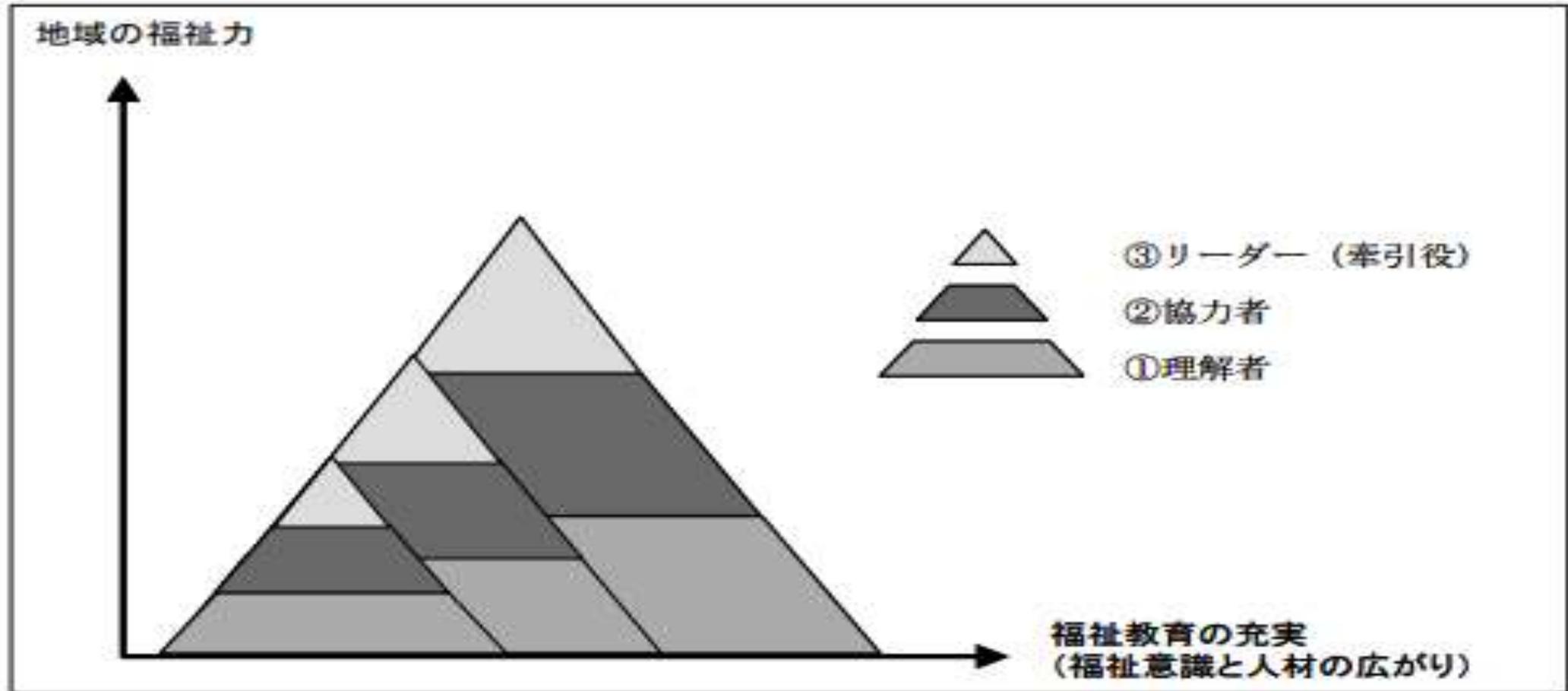
景気悪化・雇用形態の変化・定年延長等

課題

本当に地域生活課題の解決を住民が担えるのか？

現在、ボランティア・市民活動の人材不足が叫ばれるのは、「実践者・リーダー」「協力者」層であり、「実践者・リーダー」「協力者」層を増やすためには、そのベースを支える根幹に「理解者」層を増やし、その層を厚くするというボトムアップ型の取り組みが必要である。

(図表1) 「福祉教育の充実」と「地域の福祉力」の関係



相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に展開することで期待される具体的な効果

「重層的支援体制整備事業にかかる自治体事務マニュアル」(厚生労働省2021)

(ア) 属性を問わない相談支援において、本人やその世帯が抱える地域生活課題を断らず包括的に受け止めることができ、参加支援や地域づくりに向けた支援について、地域の支援ニーズに合わせた、より効果的な実施が可能となること

(イ) 属性を問わない相談支援において浮かび上がった複雑化・複合化した支援ニーズに対し、制度の狭間にも対応した就労に向けた支援や一時的な住まいの提供など柔軟な参加支援を推進することで、本やその世帯の状況等に応じたオーダーメイドの支援が実現し、属性を問わない相談支援が一層効果的に機能すること

(ウ) 地域づくりに向けた支援を通じて、地域で人と人とのつながりが強化され、本人やその世帯が抱える地域生活課題に対する他の地域住民の気づきが生まれやすくなり、早期に相談支援につながるようになること

(エ) 地域づくりに向けた支援を通じて、新たな地域活動が開拓・開発されることにより、参加支援において本人やその世帯が有する地域生活課題や希望に応じた多様かつ柔軟な支援を実施しやすくなること

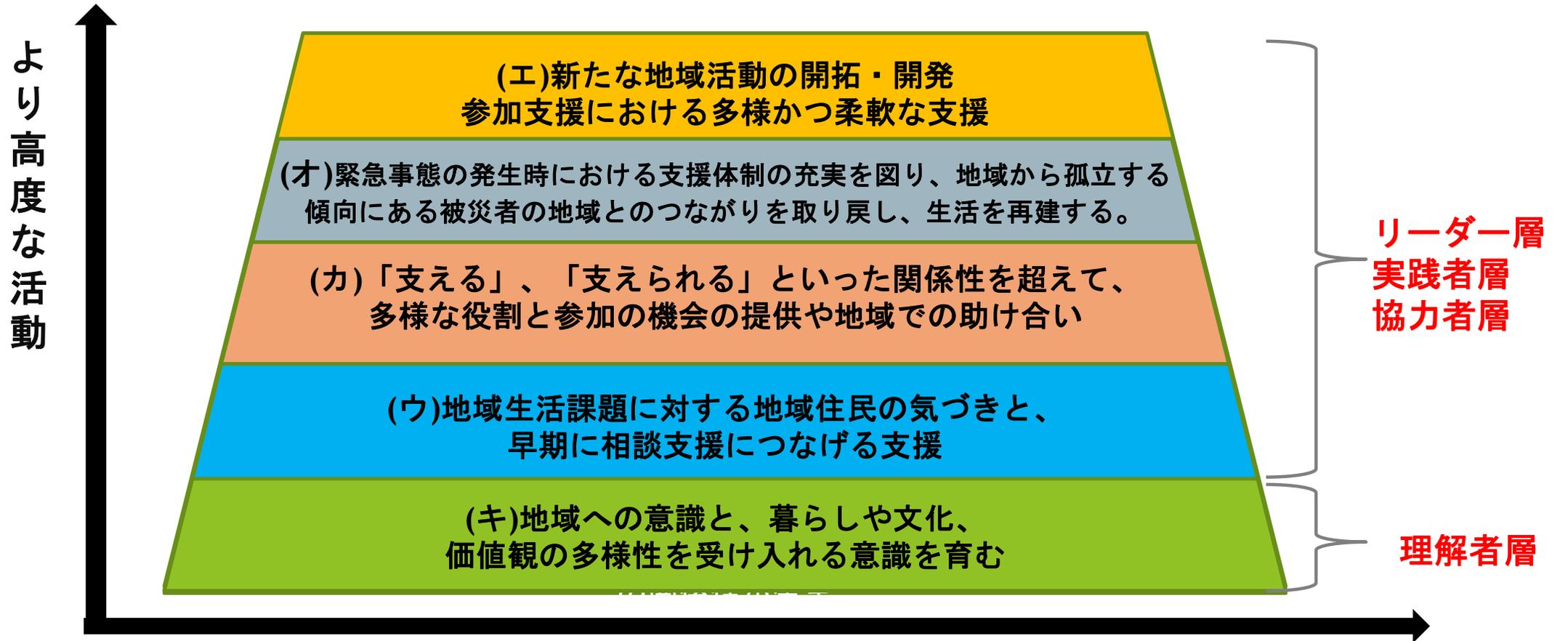
(オ) 災害や感染症の流行等の緊急事態の発生時における支援体制の充実を図ることができるとともに、地域から孤立する傾向にある被災者の地域とのつながりを取り戻し、生活を再建すること

(カ) 包括的な支援体制が構築されることによって、「支える」、「支えられる」といった関係性を超えて、多様な役割と参加の機会や地域での助け合いの関係性が生まれること

(キ) 世代や属性、国籍を超えた多様な関わりを通じて、地域への意識と、暮らしや文化、価値観の多様性を受け入れる意識を育むことにつながる

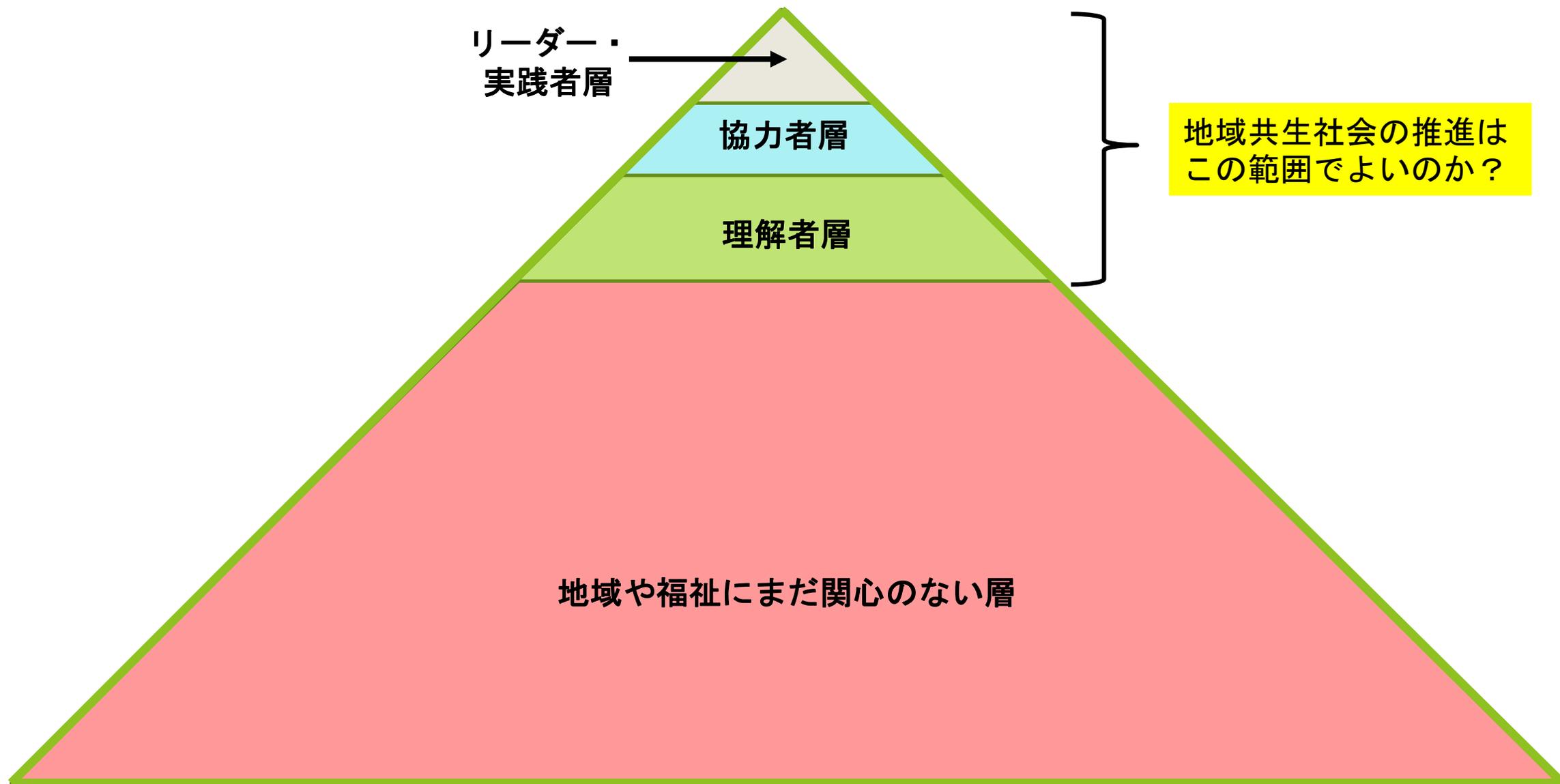
重層的支援体制整備事業における地域住民の役割期待

「重層的支援体制整備事業にかかる自治体事務マニュアル」(厚生労働省2021)の7頁の内容を加工し、期待される効果のうち(ウ)から(キ)の項目が特に地域住民に求めている役割といえる。その(ウ)から(キ)の項目を社協での活動経験から、下図のように縦軸に「より高度な活動」に照らし合わせ並べ替えた。そのうえで全社協が示す住民の層にあてはめた。



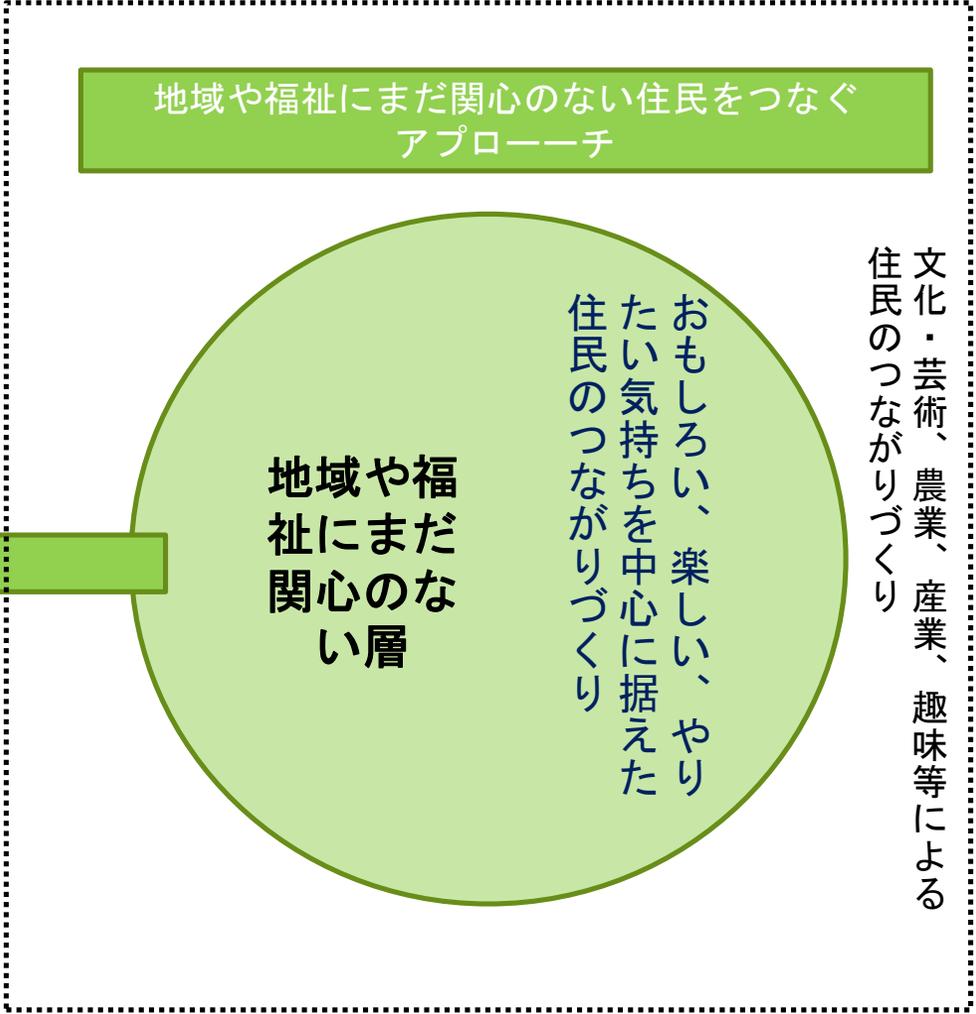
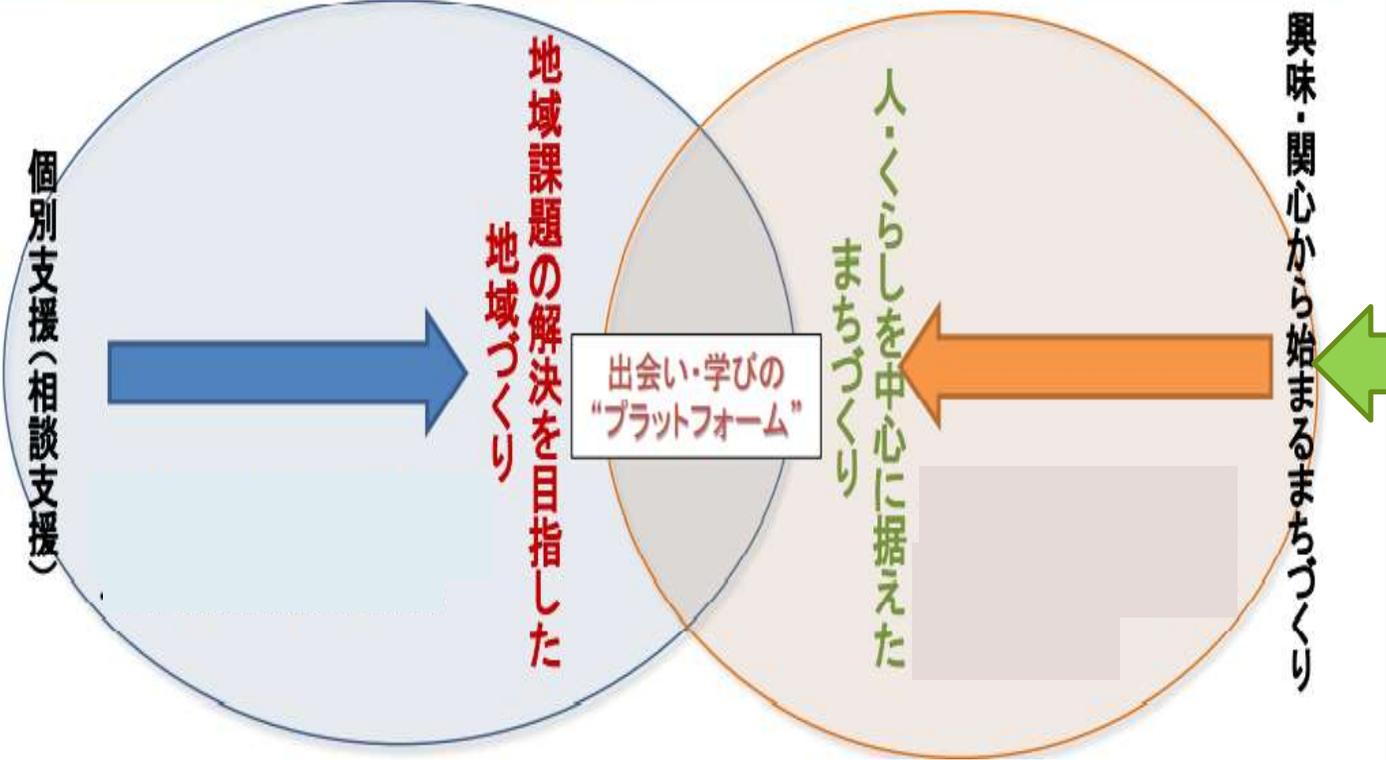
より協力が得やすい活動

地域住民の地域活動や福祉活動への活動・関心の実態イメージ



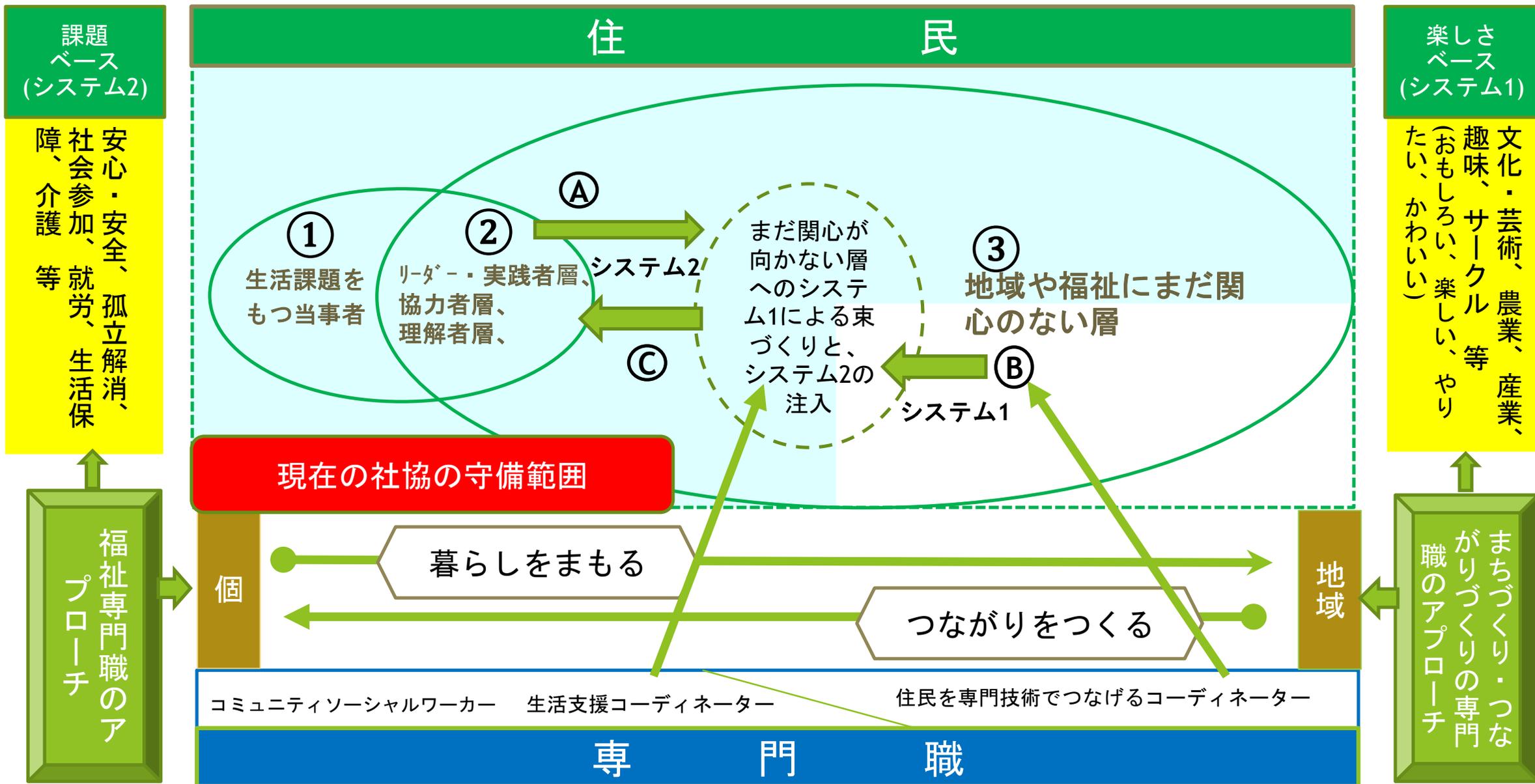
国が示す地域住民へのアプローチ

福祉サイドからのアプローチ まちづくり・地域創生サイドからのアプローチ



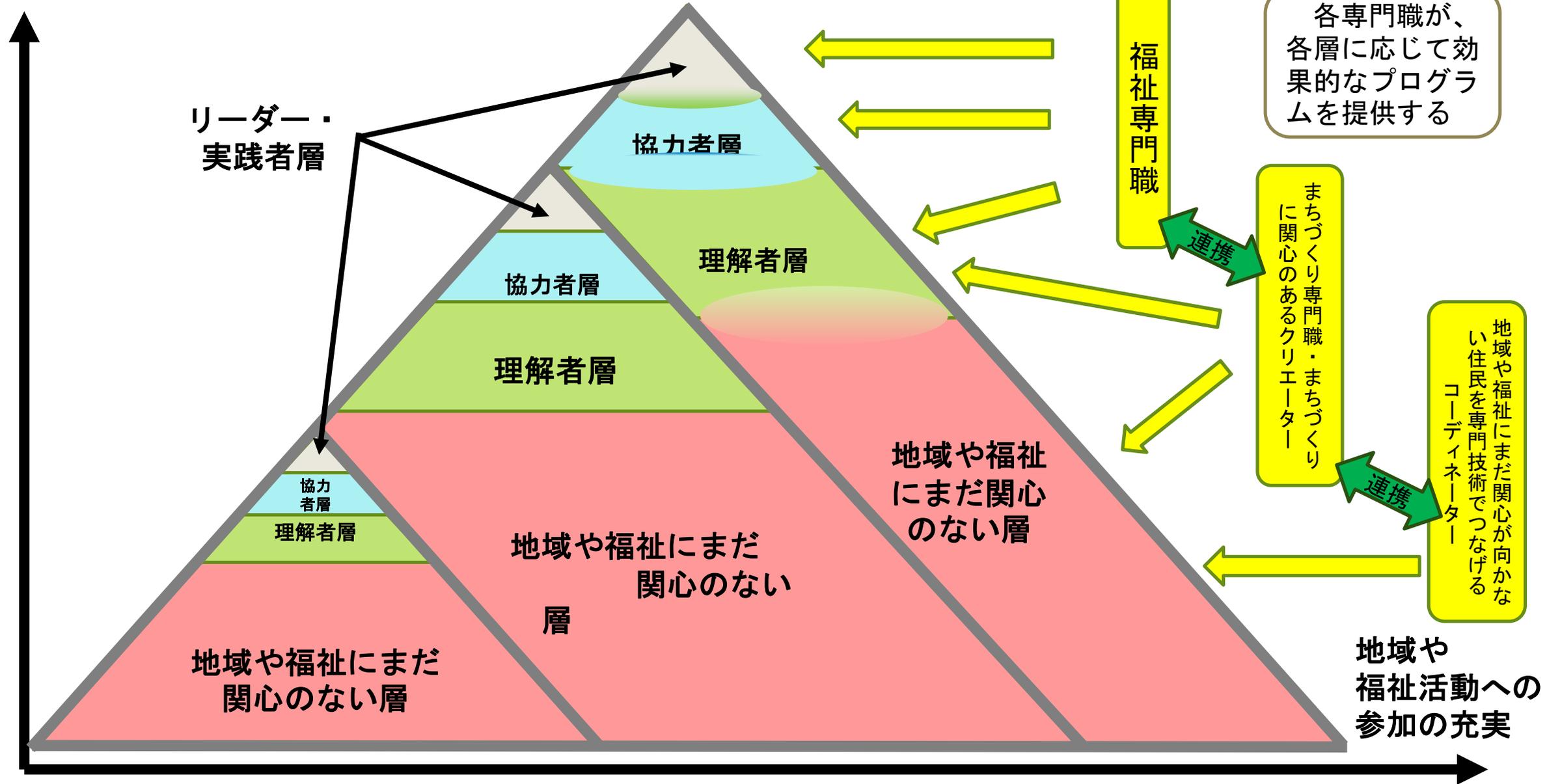
これからの地域共生社会実現への対応の一案

(現在の社協の立ち位置と、地域や福祉にまだ関心のない層へのアプローチとの連携による地域づくり)



各住民層へ支援アプローチのイメージ

地域の福祉力



策定の経緯

堺市では、文化芸術振興基本法の理念を踏まえ、文化芸術振興のまちづくりをめざすため、平成27年に堺市における文化芸術振興の基本理念などを定めた「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」(以下「条例」という。)を制定した。
 そして、この条例に基づき、本市における文化芸術振興施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成28年3月に、5年間の計画期間とする「自由都市堺文化芸術推進計画」を策定した。
 この度、計画期間の最終年度を迎えることから、計画の成果及び計画策定後の社会情勢の変化等を踏まえて、後継計画である「第2期堺文化芸術推進計画」の策定を行うもの。

現計画の評価

■ 現計画の内容
 ○基本目標である「自由で心豊かな市民生活の実現」、「都市魅力の創造」を実現するため、条例に基づき11の基本的施策を推進
 ○「文化芸術の力を活用した社会的課題の解決」、「次世代を担う子どもたちを対象とした文化芸術事業の充実」を重点的方向性と位置づけ、当該重点的方向性に基づき、上記11の基本的施策のうち「学校教育における文化芸術活動の充実」、「将来の文化芸術を担う子どもたちの育成」、「多様な分野との連携」、「経済活動との連携」の4つを重点的に推進

■ 現計画期間の達成状況
 ○各々の基本的施策を推進するにあたり15項目の評価指標を設定し、各年度における進捗状況や評価計画策定時の指標から4項目で目標達成見込

下記項目についての今後の更なる取組が必要となる

- <市民文化活動促進に資する環境の充実度について>
 市内各所でのアウトリーチ事業の実施、各地域文化会館での活動の場の提供、積極的な文化芸術に関する情報発信等により評価指標に改善が見られたものの、地域における様々な社会的課題や新たな市民ニーズへの対応、地域での市民文化活動を促進する体制構築等の対応が必要となっている。⇒「次期計画の策定に向けたポイント1、2」
- <子ども・学校教育について>
 新たに実施したアートスタートプログラム、さかいミーツアート事業等の子どもが文化芸術に触れる機会を提供する事業の積極的な実施により、評価指標の改善が見られた。しかしながら、ICT等の新たな媒体の活用による更なる対象児童の拡充や、事業効果の最大化のための事業コーディネートを行う専門人材の育成等の対応が求められている。⇒「次期計画の策定に向けたポイント3」
- <堺市の魅力の市内への発信状況について>
 百舌古墳群の世界文化遺産登録をきっかけとし、堺の古代からの歴史文化に関する魅力発信により、今まで以上の知名度の向上を実現した。しかしながら、古墳群以外の歴史文化資源の魅力発信が十分ではなかったため、市内への魅力発信における評価指標の改善には至っていない状況である。今後、古墳群以外の祭が有する有形・無形の歴史文化資源の市内内外への更なる発信が必要となる。⇒「次期計画の策定に向けたポイント4」
- <新型コロナウイルス感染症への対応について>
 新型コロナウイルス感染症の影響により、各種公演の中止や一時的なホールの閉鎖等、堺市の文化芸術は大きな影響を受けた。その影響は数年間に及び、予想されており、文化芸術活動に対する継続的な支援が必要となる。⇒「次期計画の策定に向けたポイント5」
- <計画の実効性の確保について>
 既存の評価指標は15項目中8項目が市政モニターアンケートの結果に基づき指標となっており具体的な事業との関連性が薄く、当該指標の改善のための具体的な対応策が明確になっていない。また、従来の各施策の検証方法では検証に2か年を要し、評価・検証内容の事業へのフィードバックが困難なスキームとなっている。⇒「次期計画の策定に向けたポイント6」

次期計画の策定に向けたポイント

1. 「堺アーツカウンシル」による市民文化活動の支援体制の強化
2. 地域文化会館の地域における文化芸術拠点としての機能強化
3. 子ども・学校教育に対する文化芸術の更なる充実
4. 歴史文化都市としての更なる魅力発信
5. 新型コロナウイルス感染症の影響に対する効果的な活動支援と感染拡大防止に対応した施策の推進
6. 「重点的方向性」との関連性が高い評価指標の設定による実効性の確保

次期計画骨子



評価方法の再設定

- 次期評価指標の設定
 - 現計画での目標未達成の評価指標については、本市の文化芸術の現状を示す参考指標として位置付ける
 - 重点的方向性に向けた計画の着実な推進のための具体的な事業に関連した評価指標を新たに設定
- PDCAサイクルを要請した改善スキームの実現
 - 「重点的方向性」に該当する事業に対し計画段階から、事業内容、事業目標、評価方法等の方向性確認の上、事業を実施
 - 評価指標は従来のアウトプット評価、アウトカム評価に加えインパクト評価等の新たな手法を検討
 - 評価結果を踏まえ、事業効果検証を実施し、検証結果を基に次年度に向けた事業見直しを行う

- 事業内容、事業目標、評価方法等の設定
- 事業計画に基づく実施
- 事業実施内容の振り返り、事業評価
- 次年度の事業計画の見直し

文化振興財団 & アーティスト & 子ども食堂のコラボ企画

